

日本国際経済学会第 85 回全国大会報告論文要旨

報告題目：ASEAN の金融協力について～債券市場の視点から

赤羽 裕（亜細亜大学）

本稿では、ASEAN の金融協力の現状、課題、今後の展望について、債券市場を中心に論じる。それにあたっては、本年 2026 年 5 月の ASEAN+3 財務大臣・中央銀行総裁会議で表明された ABMI（ASEAN+3 Asian Bond Markets Initiative, アジア債券市場育成イニシアティブ）を ABFMI（Asian Bond and Financial Markets Initiative, アジア債券・金融市場育成イニシアティブ）へ発展させることの合意に注目し、2003 年から開始された ABMI の取組みを振り返るとともに、ASEAN の債券市場の今後の可能性を展望した。

結論としては、ASEAN Way を維持し、ASEAN+3 による「ABMI の中期ロードマップ（2023-2026）」にある「債券市場の成長・整備に向けて外国為替ヘッジ市場やイールドカーブ形成といった金利市場などの分析もふまえた、あらたな取組みで債券市場の基礎を強化する施策」を進めるとともに、ACMF Action Plan2026-2030 にある諸施策の着実な実施が期待される。

上記を導くにあたっては、金融に関する ASEAN ならびに ASEAN+3 としての、これまでの活動を振り返るとともに、今後の計画も確認した。また、ABO データにより、過去 10 年の主要 6 ヶ国の債券市場の成長状況を確認したうえで評価した。まだ、先行研究により、当該 6 カ国の社債市場の特性も確認した。この分析からは、ASEAN の現地通貨建て債券市場は、ABMI での取組みもあり、この 10 年で規模的には拡大が確認できた。しかし、GDP 対比といった視点も含めて、「ASEAN の債券市場の拡大、整備は十分とは言えない」と整理した。

今後の ASEAN の金融協力・金融統合の展望にあたっては、グローバルでの環境変化をふまえ、米中 2 ヶ国との関係の重要性も指摘した。とくに金融面では、最近の通貨のデジタル化に関する両国の動きも確認した。米ドル建てステーブルコインを推進する米国は米ドルの基軸通貨の地位の強化を、デジタル人民元を中央銀行負債から商業銀行負債へ方針転換した中国はあらためて「人民元の国際化」を、それぞれ目指す動きと評価した。両国との中立を維持したい ASEAN 諸国にとっては、通貨面でも「脱米ドル化、非人民元圏」を維持したいと考えられる。

ASEAN が金融統合を進めるにあたり、域内通貨建て債券市場育成については、ASEAN としての枠組みにこだわらず、ASEAN+3 として ABMI を 2027 年より ABFMI として、「引き続き債券を取組の中心としつつ、より幅広い金融仲介手法の検討」することとしたのは適切であり、ASEAN Way の「時間をかけた柔軟な進め方」と評価した。

なお、本稿の内容・見解は個人的なものであり、本務先、その他いかなる組織とも無関係である。

以上